

ふるさとを語る

兵庫県は、5つの国から成り立っており、多彩な人材を輩出しています。そこで、毎回、さまざまな分野で活躍中の方に「ふるさとひょうご」を語っていただいています。

今回は、11月10日（木）にホテル椿山荘東京で開催予定の「総会交流会」において、歌声を披露していただく演歌歌手の瀬口侑希さんに、古川県人会事務局長がお話を伺いました。

瀬口 侑希

せぐち ゆうき

1975年5月15日 兵庫県神戸市生まれ
1994年 県立御影高等学校卒業
1998年 甲南大学法学部卒業
2000年4月 「ねぶた」で歌手デビュー
2015年8月～ 宍粟観光大使



小・中学校は六甲山の方です。小学生の時はバス通学で、何とも言えないドキドキ感を持ちながら、学校へ通っていきましたね。中学生になると途中から歩くのですが、上り坂でしたので、行きは大変で、帰りは楽でした。学校から神戸の港を見下ろすような、今考えると最高のロケーションだったと思います。学校では住吉川沿いでマラソンがあったり、六甲山で登山やスキー体験学習もありました。

神戸のイメージというとやはり六甲山と海ですね。海と言っても、港の方の海に思い出があります。

また、母の実家が宍粟なので、幼い頃から宍粟にもよく行っていました。そんな関係で宍粟観光大使をさせていただいています。

小さい時から歌をよく歌っておられたのでしょうか。

歌は好きでしたが、学校で習うような童謡を歌う程度でした。それが小学校1年生の時に、神戸放送児童

合唱団があるのを聞いて、友達もできるしということ、習い事の一環で受けました。見事に落ちました。本当に悔しい思いをしました。そこで、もう1回受けてみると、甲子園の先生のところまで歌を習いに行きました。それで受けたら合格して、2年間くらい、いろいろな場所や童謡とかポピュラーな歌を楽しく歌いました。音楽の勉強の延長のような本格的な合唱団でしたね。小学校4年生くらいまでやっていました。

合唱団をやめて、しばらくしてアイドル全盛時代です。テレビでは歌番組が流れ、こんな歌を習いに行きたいと思っていました。その時に新聞で兵庫区夢野台の歌謡学

院を知りました。そこで、ピアノに合わせて声をだしたら、アイドルと言うよりも、歌謡曲、どちらかというところ、演歌が私の声に合っていると先生に教わりました。これがきっかけで今まで知らなかった歌謡曲、演歌を聴き始めるようになりました。習うと披露したいという思いが芽生え、テレビ東京の視聴者参加型の番組に小学生の時に初めて出演しました。番組に出始めると目標が出来ますから、絶対に歌が上手になってやると思っていました。デビューして5、6年経ったころ、夢野台の先生が黄綬褒章を受章された時に、お祝いで歌わせていただきました。先生のお祝いで歌えたのはすごく嬉しかったです。

県立御影高等学校、甲南大学法学部へと進学されていますね。高校、大学でのエピソードをお聞かせください。

高校1年の時にNHKのど自慢に出場しました。猪名川町の会館のこけら落としで開催されました。その時は島津亜矢さんの「出世坂」を歌い、グランプリに輝きました。そうすると、高校でも出場していたことを知られるようになり、先生も応援してくださいました。

グラントチャンピオン大会は、学年末のテストだったのですが、休んで行きました。先生も理解があつて、「そういう一所懸命に打ち込むことがあるのはいいことだし、兵庫県代表で行くのだから行ってこい」と送り出してくれました。

甲南大学は、家から一番近い学校ですし、雰囲気もよく、優雅なイメージがあり、地元ではあこがれの学校です。あの綺麗なキャンパスで1年間を過ごしましたが、1回生の冬、後期テストの初日に震災がありました。甲南大学の学生も多くの方が亡くなり、家を失った方もいます。2回生の夏前くらいによく学校も再開し、それから3年間は、プレハブ校舎で過ごしました。

阪神淡路大震災の時は東灘区の自宅に居られたんですか。

はい。半壊でした。灘中、灘高校が避難場所になっていました。校舎はいっぱいで入れなかったため、グラウンドで1週間程過ごしました。

神戸市のご出身と伺いましたが、最初に幼い頃のふるさとのお思い出についてお聞かせください。

生まれも育ちもずっと灘・東灘区です。学校も小・中が神大附属住吉、御影高校、そして甲南大学と全て東灘区です。

幼い頃は父が船員だったので、外国航路でなかなか家に帰ってこないような家庭環境でした。

小学校に入るぐらいの時に、父が陸上勤務になり、仕事の関係上、何かと港の方に行くことが多かったですね。あとは子供の頃遊んでいた住吉川とか、あの辺の思い出がやはり一番強いですね。

父もちょうど航行で海外におり、母と私2人だけだったので、今みたいに携帯電話が普及していないので父とは連絡がつかない状況でした。父がどうにかこうにか帰ってきてくれて、その時によりやく良かったと思いました。

神戸は地震が起らない町だと、それまで思っていました。本当に穏やかな土地で海もあるし山もあるしというのが一瞬にしてすべてが壊れるのだなあと感じました。自分の中で人生最大の試練だったような気がします。

大学卒業後、すぐに歌手デビューされたのですか。

大学を卒業し、有線放送社に就職しました。営業職なので苦労しました。こんなに世の中は大変なんだと、そういうの目の当たりにしました。

就職活動をする時に、一度はその時にお世話になっていた作曲家の櫻田先生に、歌手になりたいとご相談しました。しかし、「そう簡単になれるものではない」と言われ、就職しました。

先生から、「文化放送でオーディション番組を見つけたから受けてみるか」と言われたのは就職した後でした。それまではアマチュアの中で競うのを目標にしていたのが、プロになるというオーディションを初めて受けることになりました。これまでは他力本願だったと思います。だれかそういう道を紹介してくれないかみたいな。それが、自分でオーディションを受けるとなった時に、就職してましたし、悩みました。周りの人にもいろいろと相談しているうちに、「自分で決めて進むことは大事なことだ」と思う。会社と家の往復だけでは、自分の夢はかなわない。本当にかなえないのなら飛び出していくしかない」と、当時の上司に言われました。その言葉でやってみようと思いました。だめなら諦めがつくし、諦めた後またやり直そう。今ならまだ間に合うと思ひ、会社を辞めて、オーディションに向けて上京しました。

東京で櫻田先生のレッスンを受け、1999年、23歳の時に文化放送のオーディションに合格しました。翌年デビューし、以来17年やらせてもらって、振り返ると順

風満帆に来たのかなと思います。ちなみに、歌手の水川きよしさんは、私の少し前に同じオーディションを受け、同期デビューです。

NKHにレギュラー出演されていましたね。

もともとBS放送でやっていた「ごきげん歌謡笑劇団」という番組があり、綾小路きままろさんが座長として人気の番組でした。その番組が地上波でレギュラー化されると言う時、きままろさんが「愛のドレミファ3人組」という、私が出演させていたことになるコーナーの企画を立てられました。ご夫婦の家を訪ねて、ご夫婦の日常を知りたいとの思いがあったそうで、ロケでお話を聞き、そこに出来れば歌があればいいし、楽器はアコーディオンがいいと。きままろさんの様々な希望があるコーナーには詰まっています。途中、きままろさんからコロッケさんに座長が引き継がれ、トータル4年間出演しました。

バラエティー色が強い番組の中で、その1コマでちよつとホロツとするリアリティのあるお話を聞いて、そこに歌を届けるといふ、歌手としては歌手冥利に尽きる役をいただきました。少なくとも48軒の素敵なご家庭をまわりましたね。

櫻田先生が「聞いてくださる方の心が震えるような歌を歌うというのが、歌い手の使命だ」と高校生で初めて会った時からずっとおっしゃっていたのですが、この番組でようやくその意味がわかるようになったと思います。もちろん上手に歌えないといけないのですが、上手に歌うことがいいというだけではなくて、その人生やいろいろな経験があるところには勇気づけられる歌が必ずあって、それを歌う時には、ちゃんとそれを忠実に再現でき、なおかつ心をこめてお届けするというのが歌い手なんだというのは、本当にあの番組で教わったと思います。

今年3月に発売されたニューシングル「八尾しぐれ」のご紹介をお願いします。

舞台は「おわら風の盆」という富山県の民謡行事が行

われている町で八尾というところで。高橋治さんの小説「風の盆恋歌」がおわら風の盆では有名ですが、まさにそのおわら風の盆を題材にした歌です。

胡弓と三味線のおわら節がなんとも情緒的で少しな

んかもの悲しくて哀愁があり、そこに重ねるものは恋心切ない恋ということで、出来上がったのが「八尾しぐれ」です。今年の8月に八尾の前夜祭に行きましたが、胡弓と三味線の音色がなんとも良かったです。

石川さゆりさんが歌う「風の盆恋歌」が大好きで、中学生の時に初めて歌ったのがこの歌です。日本レコード大賞最優秀歌唱賞を取られた歌です。1番、2番、3番とテンポも違うし、すごい歌曲のようなアレンジです。とても格好いいと思って、何もわからないで歌っていました。

哀愁のある情緒のある恋物語が作れたらというので完成したのが「八尾しぐれ」で、私はとても嬉しかったですね。本当にいい歌をいただいたので、大事に歌ってきたいです。

最後に、兵庫県出身の皆さんにメッセージをお願いします。

東京に来てすぐに思ったのは、神戸はなんていい町なんだろうということ。震災があり、自分の中ではいろいろな思いはありましたが、海もあって山もあり、人も穏やかで、そういうところで育ったことが自分の中に常に根底にあるので、ふるさとを誇りに思いますが、全国で活躍できたならというのは、常に思います。自然も豊かですし、都会もあって、食べ物もお酒もおいしいですし、恵まれた土地で、兵庫はすごいところだと感じます。

